

広島県立広島叡智学園中学校・高等学校 学校運営協議会の会議録

本校の学校運営協議会を次のとおり開催した。

開催日時	令和4年7月15日(金) 14時00分から15時00分まで	開催場所	会議室
出席委員	<p>人数：6人 委員氏名(役職) 森下 秀月氏(大崎上島町商工会事務局長) 坪谷ニューエル郁子氏(東京インターナショナルスクール理事長) ※オンライン参加 田頭 吉一氏(国立大学法人鹿児島大学副学長) ※オンライン参加 草原 和博氏(広島大学大学院人間社会科学研究科教授) 比枝 圭介氏(PTA会長) 福嶋 一彦(校長) 高田 幸典氏(大崎上島町長) ※欠席</p>		
会議の概要	<p>○会長及び副会長選出 会長に草原委員、副会長に比枝委員を選出することとし、全会異議なしにより可決された。</p> <p>○学校経営計画(経営目標、行動計画等)の説明 本校から、学校経営計画の項目に従い、国際バカロレア、主体的・対話的で深い学び、寮生活など、本校の教育活動について説明を行った。 学校経営計画が、全会異議なしにより承認された。</p> <p>各委員からは、次のような御質問・御意見をいただいた。</p> <p>○各委員からの発言要旨(御質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップの位置づけを教えてください。また、大学進学に関する説明を、生徒・保護者に対してどのように行っているのか。 →インターンシップは、単なる職業体験ではなく、その後のプロジェクトにつながる活動として位置づけている。大学進学に関する説明は、中高一貫教育校である利点を生かし、中学校第2学年後期から、IB入試を軸とした進路指導を行うことを、生徒・保護者に説明している。 ・MYPでの学習が、PP(パーソナルプロジェクト)にどのように繋がっているのか。留学生は日本の食生活に不安はないのか。また、夏休み期間中に自国に帰省できない留学生に対するフォローアップはあるのか。 →中学校第1学年から未来創造科の中で、外部と連携したプロジェクト学習に取り組んでおり、ここでの学びがPPに繋がっている。食生活については、日本の食文化に触れられるよう郷土料理等を適宜提供している。夏休みなどの長期休暇には、自国に帰省できない留学生は、本校日本人生徒の家庭にホームステイすることとしている。 <p>(御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒本人の「好き・得意」を、高等教育に繋げていくことを意識し、指導してほしい。海外大学への進学に関しては、欧米の大学は授業料・生活費が高額なため、東欧、ドイツ、アジアの大学も視野に入れて研究すると良い。 ・地域で本校生徒の活躍が話題に上がる機会が多くなった。今後もより一層の地域連携を行ってほしい。 ・保護者代表として、このようなメンバーの方々に子供たちの学びを支えていただいていることに感謝申し上げる。 ・教職員がどのようなラーニングコミュニティを形成していくのが重要。教職員の多様性も生まれてきた中で、今後は外国人教員の声も聞きたい。 <p>以上、委員から貴重な御意見等をいただいた。本校としては、いただいた御意見をもとに、今年度の学校運営に活かしていく所存である。</p>		
次回開催予定日	令和4年9月末		

※ 「概要」欄については、協議の経緯は簡潔にし、協議の結果が分かるように記載すること。